

2020年度（令和2年度）群馬大学医学部医学科推薦入試における試験問題文の誤り及び正答の追加について（お知らせとお詫び）

令和元年11月23日(土)に実施した医学部医学科推薦入試で出題した「小論文問題¹」について、令和元年11月29日から令和元年12月4日にかけて、受験生及び受験生が在学する高等学校の教諭から「モル濃度を求めるには、海水の密度の条件が必要ではないか」との趣旨の照会をいただくとともに、12月5日には文部科学省入試ミス対応窓口からも当該問題について再確認を行うよう連絡があり、あらためて「小論文問題¹」及び「小論文問題²」を再確認したところ、試験問題文の誤り及び正答を追加すべきことが判明し、合格判定を再度行うことといたしました。

受験生の方々はもとより、保護者の皆様及び高等学校等関係者の皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけする事態となりましたことについて深くお詫び申し上げますとともに、試験問題の作成から合格発表に至るまでの体制等について見直しを行い、再発防止に万全を期すよう努めてまいります。

再確認の結果

1. 試験問題文の誤りについて

- ① 小論文問題¹ 問1(4)4行目(問題冊子7ページ)
誤：「水の質量は1.0 g/mL、・・・」
正：「水の密度は1.0 g/mL、・・・」
- ② 小論文問題¹ 問1(4)4行目(問題冊子7ページ)
誤：「アボガド定数は・・・」
正：「アボガド数は・・・」
- ③ 小論文問題¹ 問2(1)4行目(問題冊子7ページ)
誤：「 Na_2HPO_4 の分子量は142とする。」
正：「 Na_2HPO_4 の式量は142とする。」
- ④ 小論文問題¹ 問3(1)2行目～3行目(問題冊子8ページ)
誤：「塩化ナトリウムの分子量は58、・・・」
正：「塩化ナトリウムの式量は58、・・・」
- ⑤ 小論文問題² Figure 1下部(問題冊子8ページ)
誤：「your colleague」
正：「your colleague」
- ⑥ 小論文問題² 訳注(問題冊子8ページ)
誤：「hard coding」
正：「hard coding」

2. 正答の追加について

- 小論文問題¹ 問8 7行目の(h) (問題冊子9ページ)
「細尿管」, 「尿細管」を正答としていましたが, 「腎細管」についても正答としました。

3. 出題意図の伝わりにくい試験問題について

- 小論文問題¹ 問3 ((1)及び(2))の設問(問題冊子8ページ)
出題意図として, 初歩的な化学の知識をもとに海水の濃度を計算し, 得られた結果を根拠に, やや説明不足で曖昧な本文の記述を補足させ, より科学的で正確な文章にできる能力を

みることとしています。

このため、単純な濃度計算式をたてて概算を行うことにより答えを導き出していく力を試すこととしていましたので、海水の密度の条件は不要であると考えておりましたが、受験生等からの照会により、再確認を行った結果、与える条件設定として「海水の密度は 1.0 g/mL とする」との注釈を添えるとともに、問題文中の「濃度をモル数を用いて表せ」の記述を「濃度を mol/L を用いて表せ」とすることがより適切であったと判断しました。

今回のミス等への対応

上記、再確認結果における 1. の①～⑥については、解答への影響はないと考えられるため得点調整は行わないこととします。

2. については「腎細管」も正解（配点 1 点）とします。

また、3. については、受験生全員を正解（配点 10 点：各 5 点）として採点し、再度合否判定を行ったところ、新たに 4 名（地域医療枠 2 名、一般枠 2 名）の方々を合格としました。

当該合格者への対応

合格者及び合格者が在学する高等学校長に対して、12月20日にお電話にてご説明するとともに、合格通知を郵送いたしました。

また、受験生全員に「2020 年度（令和 2 年度）群馬大学医学部医学科推薦入試における試験問題文の誤り及び正答の追加について（お知らせとお詫び）」を郵送いたしました。

再発防止への取り組み

試験問題の作成について、複数教員による点検を行っていましたが、結果的にミス等を見落しました。

今後は、試験問題を点検する担当教員のチェックの観点を明確にし、各段階での点検作業が的確に行われたかを確認するよう体制を整備し、ミス等の再発防止に努めてまいります。

受験生の方々をはじめ関係各位の皆様には多大なご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

問い合わせ先：群馬大学昭和地区事務部

学務課入学試験係

電話：027-220-8908/8910